

## 冬のいのち

どこまでも青い寒空に  
裸木が凜と立つ

これ以上落とすものとてない枝が  
張りつめた空気をつん裂いて天に延び

ひび割れた樹皮が  
寒風と闘っている

死に絶えたかに見える幹の内を  
ごうごうと音を立ててあたたかい樹液が流れる

地中深くに張った何万何千の根っこは  
休みなく春を用意している

冬には冬のいのちがある